

子どもの皮膚の特徴と 皮膚の病気

子どもの皮膚は未熟であり、大人にはあまり見られない病気にかかることがあります。今回は、とびひ（伝染性膿痂疹）と水いぼ（伝染性軟属腫）、虫刺されについて説明します。

とびひ（伝染性膿痂疹）

夏に起こりやすい皮膚の病気に『とびひ（伝染性膿痂疹）』があります。子どもによく見られるとびひは、健康な人の約30%の鼻腔や皮膚に存在するブドウ球菌という常在菌による皮膚の感染症です。

なぜとびひ（伝染性膿痂疹）になるの？



けがや虫刺されをひっかくことで、傷ができると汁が出る

汁に含まれる栄養分に菌が集まる

菌が『外毒素』という毒をつくる

毒が皮膚をこわしてしまい、水ぶくれができる

水ぶくれをひっかき破れると、その汁が付着したところに感染が広がる

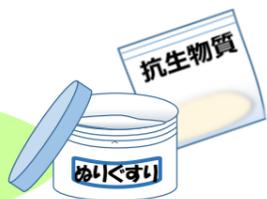
水ぶくれの汁の中には、菌がたくさんいます。その汁がほかの皮膚に付着して、その皮膚に感染します。それをくり返し、いろいろなところに広がるため、『とびひ』と呼ばれます。



治療

まずは受診を！

塗り薬だけで治すのが難しく、治りが悪い場合には、抗生物質の飲み薬が必要となることが多いです。疑わしい時には早めに受診しましょう。



からだを清潔に！

皮膚を清潔に保ちます。プールや海水浴等で長く水に触れていると、症状が悪くなる場合があります。保育所等では、医師の指示があるまで、プールは禁止です。

子ども同士の感染に注意！

大人に感染することはまれですが、子ども同士で感染することがあります。きょうだいがいる場合、お風呂は別にし、タオル等も共用しないようにします。水ぶくれやじゅくじゅくした部分を、ばんそうこうやガーゼ等で確実に覆えば、保育所等で過ごすことができます。

水いぼ（伝染性軟属腫）

ウイルスによる皮膚の感染症です。水いぼは、米粒の半分くらいの大きさで、真ん中に小さな芯があり、全身のいろいろなところにできます。

なぜ水いぼ（伝染性軟属腫）になるの？

水いぼをひっかく、接触することで、水いぼが潰れる

水いぼから白いかたまりが出る

他の皮膚に付着することで、水いぼが広がる



アレルギー性皮膚炎等がある場合に、急激に広がる場合があります。



治療

きちんと対応を！

1年～2年程度で自然に治ることが多いため、治療をせず経過をみていく場合もあります。保育所等で水遊びやプールに入る時は、水いぼを完全に覆うことのできるラッシュガード等を着用し、他の子どもと皮膚が触れない工夫が必要です。

早く治したい場合は、治療を！

一般的には、水いぼの芯を一つずつピンセットで除去します。痛みを伴うため、取り除く約1時間前から、痛み止めのシールを患部に貼り付けます。その後に、水いぼをつまみ取ると少ない痛みで取り除くことができます。数が増えてしまうと、治療が難しくなるため、できるだけ早めに治療を開始した方がよいでしょう。

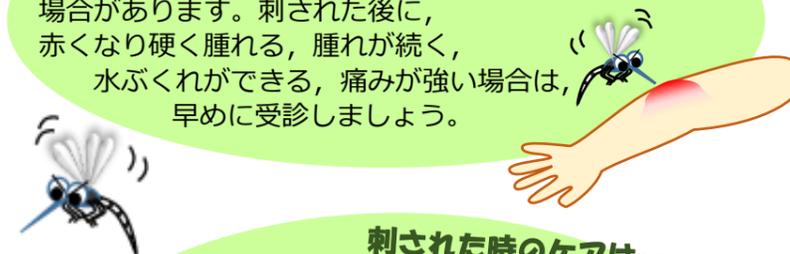


虫刺され(蚊など)

通常、虫に刺されてすぐに刺された部分のかゆみや痛みがみられます。その後、刺された部分が赤くなる、腫れることがあります。虫刺されは病気ではありませんが、虫刺されが原因で『とびひ（伝染性膿痂疹）』になることもあります。

できれば刺されて30分以内に塗り薬を！

子どもによっては、刺された後にひどく腫れることがあり、ステロイドの塗り薬が効果的な場合があります。刺された後に、赤くなり硬く腫れる、腫れが続く、水ぶくれができる、痛みが強い場合は、早めに受診しましょう。



刺された時のケアは…

かゆみが治まってすぐに塗り薬をやめると、かゆみが再発し、治るまでに時間がかかってしまうことがあります。かゆみが治まっても、触った感覚がほかの正常の皮膚と同じ程度になるまで、塗り続けることをおすすめします。体が温まるとかゆみが増すため、かゆみがある場合はお風呂のお湯に浸かる時間を短くしましょう。かくことで、『とびひ（伝染性膿痂疹）』等になる場合もあるため、かゆみが強い場合は、濡らしたタオル等で冷やすと楽になります。



虫刺されを予防しよう！

虫刺されは予防することができます。家の中では、虫よけ剤や殺虫剤等を使用しましょう。また、屋外で遊ぶ時は、できるだけ肌の露出を避け、肌が露出している部分には、虫よけ剤を使用しましょう。



※虫よけ剤や殺虫剤は、製品の添付文書等をよく読んで使用しましょう。